瀛海異聞

拾四

N0134

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

DK
18
.087
1807
RARE
No. 14

1909407

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

環海異聞巻之拾四

長崎着岸与里三陸川来之記

九月六日是比長崎伊王崎へ船を繋く
長崎の湊ハ此処なりと云ふ事船中の役人ハ
志里為る根なれともそしめこと事なし海の渕
深の日ど船を考へ粮餘しこと船を得し居る
内路に本ハ船の入りし事長崎よりこと海
とらへこと所役人為人中黒の小旗を建て書
船まのり見届に以船なり船中ハ為長崎役
処分見下の船来れり事と船をもつ漂流

上 武笠 崎 瀬ヶ

人物おしし子細物中きせよ仮節命せる様
に共是迄の法あい日本地といひ又家は長崎
なりといへども何物なりとや夏かとなりと思ひ
通せしに向方船来りなりといふに除く前
部の船にや乞えなくて結め居し円次方に
追付物なれば船迄も并に円に居られし方に
日本人なれば嫌しを限りなく家を漕付
なば仮節の命のめくす居しと共へし
謝せしく待らけるる処程なく本船のきりを
来られ多くも相手尋ぐれば極ことなり且暇ひ見る
なしに狗吉りそれに云きがりを一云も中お

彩し神詣へ引入陰を鍬しと云

此菩ヲロシヤ人つを家に以尋に度小家に重に船を

引連し夜五ツ時比に至り御検使あり（目あ方行方笠 方ゟ兼役左平）

と云ふ人のらし阿蒙佗人両人（吉人を加比丹トーフレ 吉人ハ汝人某）大小通詞

をし添（同カ七ツ比あ船五ツ比 伊王ガキ）へハ多きを云蜜船にのり条ふれ本船へ

揚り多り使菩我にへ中ゆを本国多作りなへふれ

し日本仕立し服を着りへ死お屋しとをし

男に付是を着用し死お屋しと指図に付是

を着用し死おこへは服に次第に汝人方多細に以

礼同あり此節使菩レサノツしハ椅子にかゝれり阿

蒙佗の加比丹ハ同写へ入り来り居れり何ゟ問答

あるゆゑ以なり夜加比丹（カビタン）保良の後辞なり見えし
甚忘れなる氣色なり大通詞石橋助存と云ふ
役人ランソフと云ふ者へ對話法度とかなるに
なり保節阿葉陀加比丹なり見えし位階
も至るひくきまのなり稱しと同坐以発
お様なし用度添しとハ引退かせ櫓
へあからせ動くなし倍の役人を指出せし拾
るゝ加比丹家を退お櫓へあかり居
れり稱しども以尋一通り添し其処ハ退
おせし右其後の度見出せ以其良松
前らく先年後と動れし以後又

屍しと以尋あるべく是を指(サシ)かさ知らしく
誥にいはし 謫(キン)孫の平復の御かけの敬くしく
きこけおゐる疏なるを以引合ゐるに國王分の書
等写あるもきしおこ献上物の内にかき其所有
しと学ひ見

国王の書等殆講なる上平復の印あらけ
紙入にしく一所中にあるし御見し
度あれども内の文云等の度ハ及ば
此義無異并に縮硝等潜く以上と
学ひ見ハ此地の所宣法なるを云度ハ
兼白学及出物にもある度と見へ云等分

船オロシヤまても一の者[illegible]
書ニ以後所へ居あかり御用人御行ニ申
上小瀬戸分八里程之間に往返有之ニ付加
比舟へ与五連に候与行申申刻加比舟沖へ
居越酉の下刻伊王崎沖五町程沖へ
碇御入亥の刻に検使此方出役 第ニカヒ
タシ 亥ニ船ニ船ニ居新屋へ御入与来ニ
頭分ニし者 其奔(トコロ)ニ居左右ニ殺(サリ)か
どもの事のとも相附添
ニ船居新屋入口足怪左右当人居有ニ取仕
也に鉄砲御持獲ニハ至合入に大どふらんの

様来その撰蔵室に
お写居し

以後使分以尋之次第

一 其方ともハ何方のものに以て
以答ヲロシヤ人に有之ハ

一 何方に依来詰て
以答 ヲロシヤ国王分江府へ三通の書簡并献貢
お礼お勤度使答為渡来候

一 先年夷蝦地へ御渡御信牌（シン）以渡之与来ハ右
之品々此答持渡ニ付
右持渡利信牌 [illegible] 以後[illegible]

一 ヲロシヤ國分何比お帖はらず且何ハ〳〵立當らざる
細中ニ宮様宗御等承ると度
此義先々書載有之事

一 江府兼御奉り処へ是ハ書御控候へ御流
之事

此儀江府表へ捧ハ出當目前へ条上書ニ達し
上ニ御中ハ奉り処へ差しおと以出當も書ニ持
条はる何ハ他の當へ難差て

一 位牌 検候へ御流之事度
是又ハ致処へ書ニ持參はる事

一 御玉法之度有成つ者玉茶等今晩御之事

此等最早に乃去夜中ニ至茶卸ニ候何
分難渡時ニ卸中ニ候此等以前中ニて夏
右之以尋中ニ加比舟宗船ニ於ニ者亞ニ礼如言
しに對之應對ニ相見へ以來ニ
ヲロシヤ人ニ分中ニて
一 拾五ヶ年ニ當日所へ日本船漂流此者の事
細之者ニ付ニ同日人此等連渡九人之事の日所
ニ殆ニ居し紀合拾六人漂流此
以尋
殆九人之事の何者殆ニ成
以答ヲロシヤ國ニ殆ニ居滯ニ殆ニ如ニ好之ニし

一 仙基之何とかしかしこ者に仙ふ
仙菩薩之通里

室風沢村
津太夫
六十一才

室の濱
俵平
四十三才

〃
左平
四十一才

室風沢
太十郎
三十四才

〃 何年何月何日仙基事相談ふ

寛政五丑年十一月七日出船候

一 ヲロシヤ國へハ何れ漂流候ハ

丑十一月廿七日雑風に遇ひ翌寅年五月と以ヲロシヤ国へ流漂候

右十一月之日附漂流等ハ一と出候に遇ひ行写し何ヤ御見ゆるか

一 何れ積交仙基出船候ハ

仙基ハ江戸ハ門場米積請出船候

一 一年ニ而ハ今ヲロシヤ人ハ松前此差案組参ハ

ヲロシヤ国ニ至ハ此方ニ至ハ廿日本へ御國候

代と以寿以来ハ御国候ハ事ハ処在ハ此差

日本へ差送ハ御事ハ事案組参ハ

一 船の名石枝等ハ荷(イガ)に以ハ

平の字

名ハ若宮九石枚ハ八百石二十反帆ニハ出し

一 家組何人ニてあるべし

組合拾六人家組三人ハヲロシヤ国ニて病死仕弥ニ

九人ニヲロシヤ国ニ残り居申し

一 九人ニ何度弥居申し

主当大国ニ参ニ以来ニ当ヲロシヤ出船ニ以九人ニ者

九居合ニ申し左右九人ニ内当人極光ニ当ニ是も二叶

あるく其上病気ニ以来ニ申し当春時分ニ弥申し

右ニ漂流人とも何れもヲロシヤ人殺ニ用ニ跡服

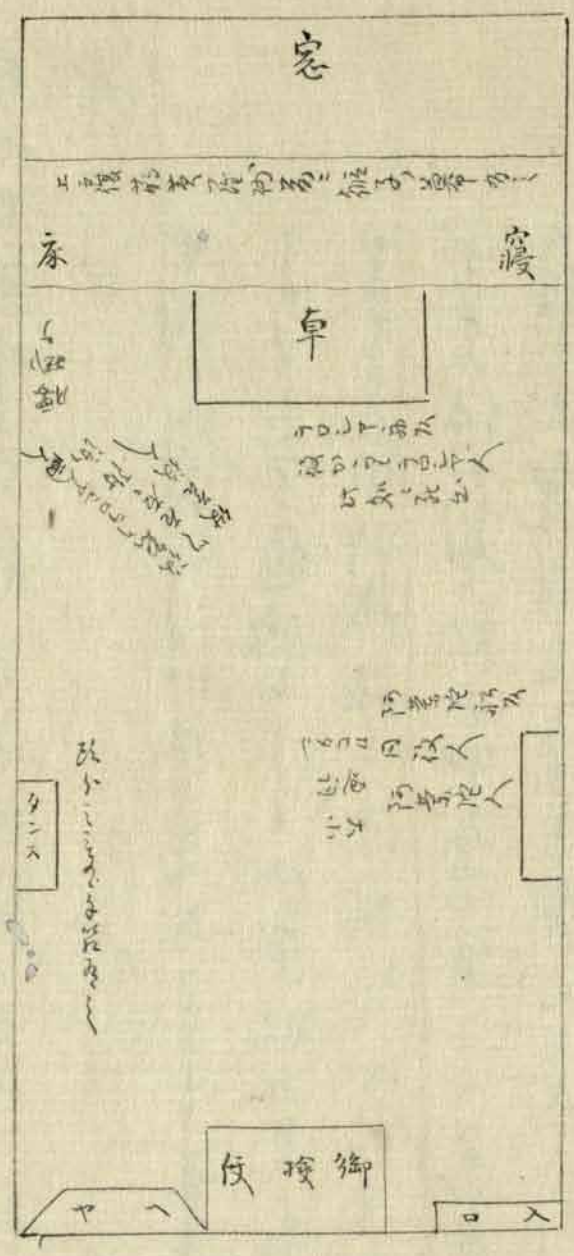
ハ白木綿御木綿の殺ニ当ヲロシヤ云ニ来よく

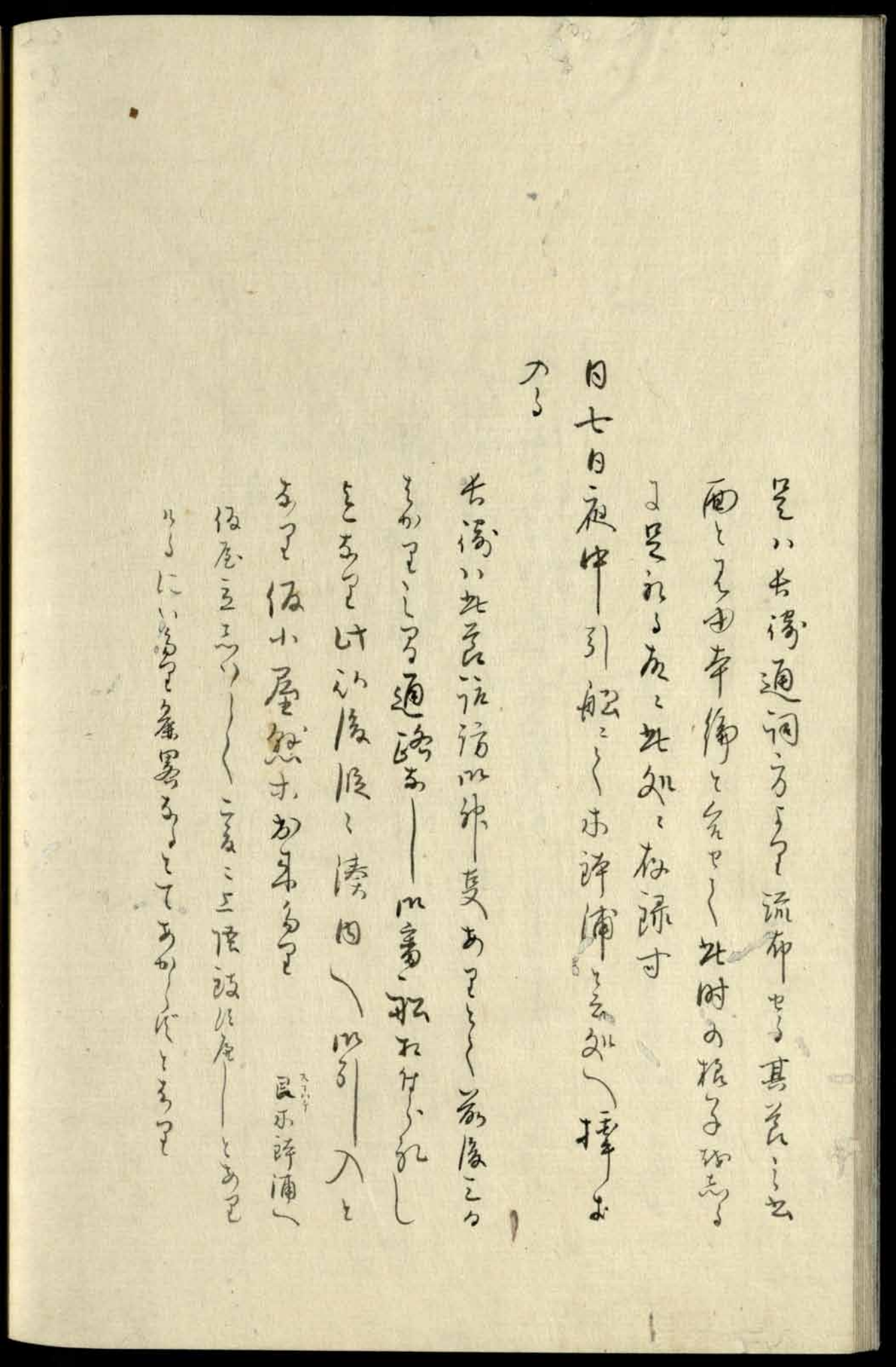
以来居ニ拾子ニ以来し

一御検使御見分之節足軽七人ハ鉄炮仕度ニて鉄炮
打方之纓ニ陣笠をかけ前ニ控罷鉄炮を持ち
差人ハ大きなる太鼓を首ニかけ何れも列を立く
且並ニ居太鼓を打ならし合図いたし控居の鉄炮
を持ちたる何れも発砲致し鉄炮を片手ニ行け七人之
程一人ツヽ右鉄炮打仕形致候二人も同様
仕形を致し御上之頭ニ差着船頭屋膝下之
候迄御案内之役ある同所人御入之様移り之船
頭部屋掛り俵入口ある網元一間入半町し程
の麻上下着大尽紙子の振舞町しはしまて御検使の府之
但之凡八九反て浦程

其向忘硝子陳子忘其中ニ往何里大讀をの
け意里前ニ出ル四方の暇墨の數ハ之上ニ借ひ
前黄ノ一注紙其上ニ三人四方ニ讀ハ之ハ大ハ相ハ之
内ニ江府ハ持ル書簡三通和文ヲロシヤ陽明語
一通ハ其ハ奉行所ニ差上ハ書簡三通江府表
ヘ差ニ出ル之写ニ入ハ之

江府ヘ持ル書簡三通ハ以下原文傳聞ニ誤ル
ハ之ニ似ル之事語ヲ採ルニ江府ニ持ル書簡ニ出ル同
ニ之ハ三通ハ認メ持ル里一通ハ和文ニ認め一通ハ
本国ヲロシヤ辞ニ調ヘ一通ハ陽明語を用ひて出
し右ハ格ニ写ル持ル所ニ是ハ此事ノ所ニ此目見


窓
床
寢
卓
タンス
御接伎
ヤ
ヘ
入
口



是ハ長徳通詞方より流布せる其義ニ云
西と云田本衛と名せし此時の根子なる
よ是れる故ニ此処ニ存録す

日七日夜中引船にて木評浦と云処へ撞ま
入る

長徳ハ此義詰訪以外度あるとて前後三日
まかりしかり通路なし以前ニ私れ付られし
是なり此所後浪ニ湊内へ以引入と
なり仮小屋然木が来る事　良木評浦へ
仮屋立ちけしく二度ニ上陸致候屋しとあり
けるにいふ事を案畧なるとてあかしぞとなり

此辺の名一々覚く事しし事あり
此義佐賀福岡分れ手前
公後に云扱ふし事しなく詠せるものあり
愛に附せず

去諸々為の記事なく記せ

長崎湊口之圖

御番処

西泊

肥前屋

石火矢

肥前陣場

石火矢

肥前陣場

湊口

○其後ヲロシヤ船
此処ニカヽル

肥前陣場

石火矢

肥前陣場

石火矢

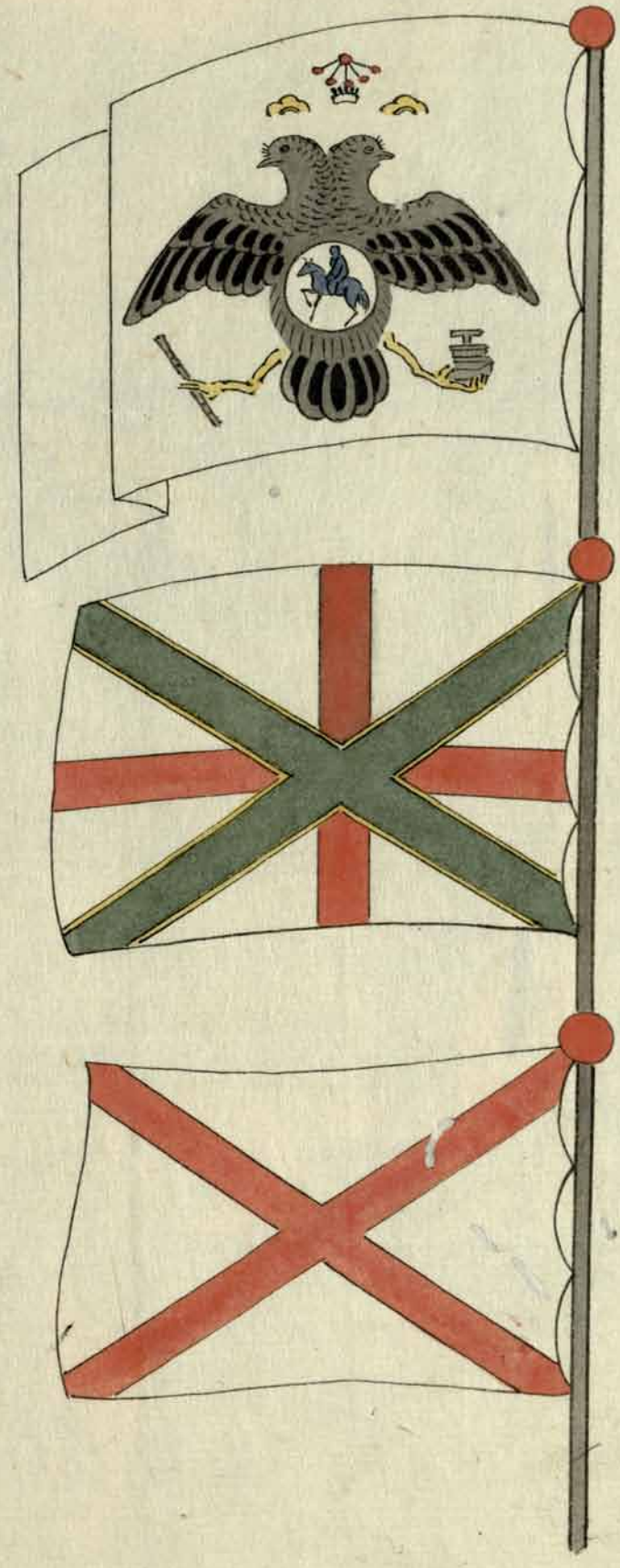
肥前陣場

肥前陣場

カコクラ村

肥前陣場

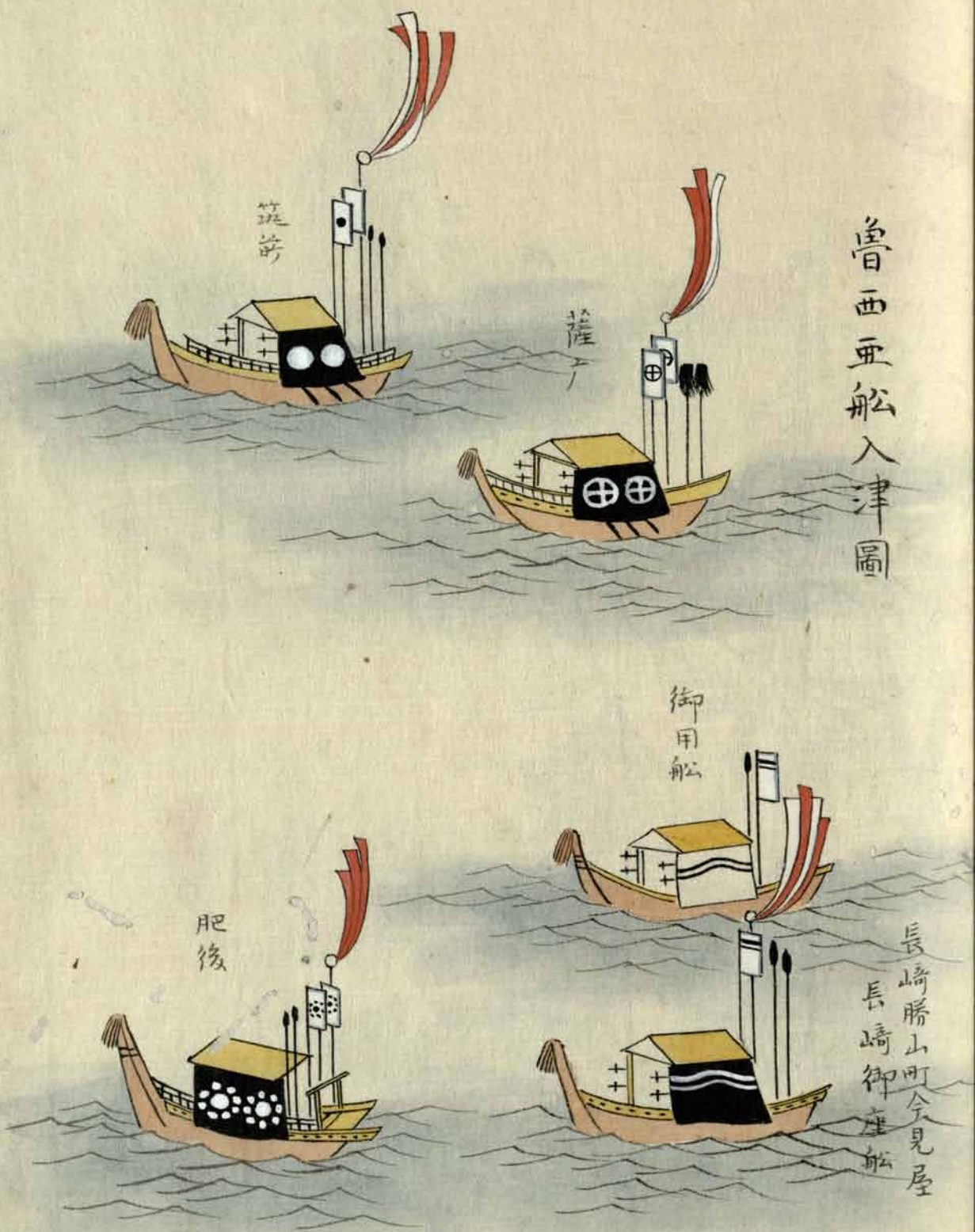
遠見
福田太村
出張
神



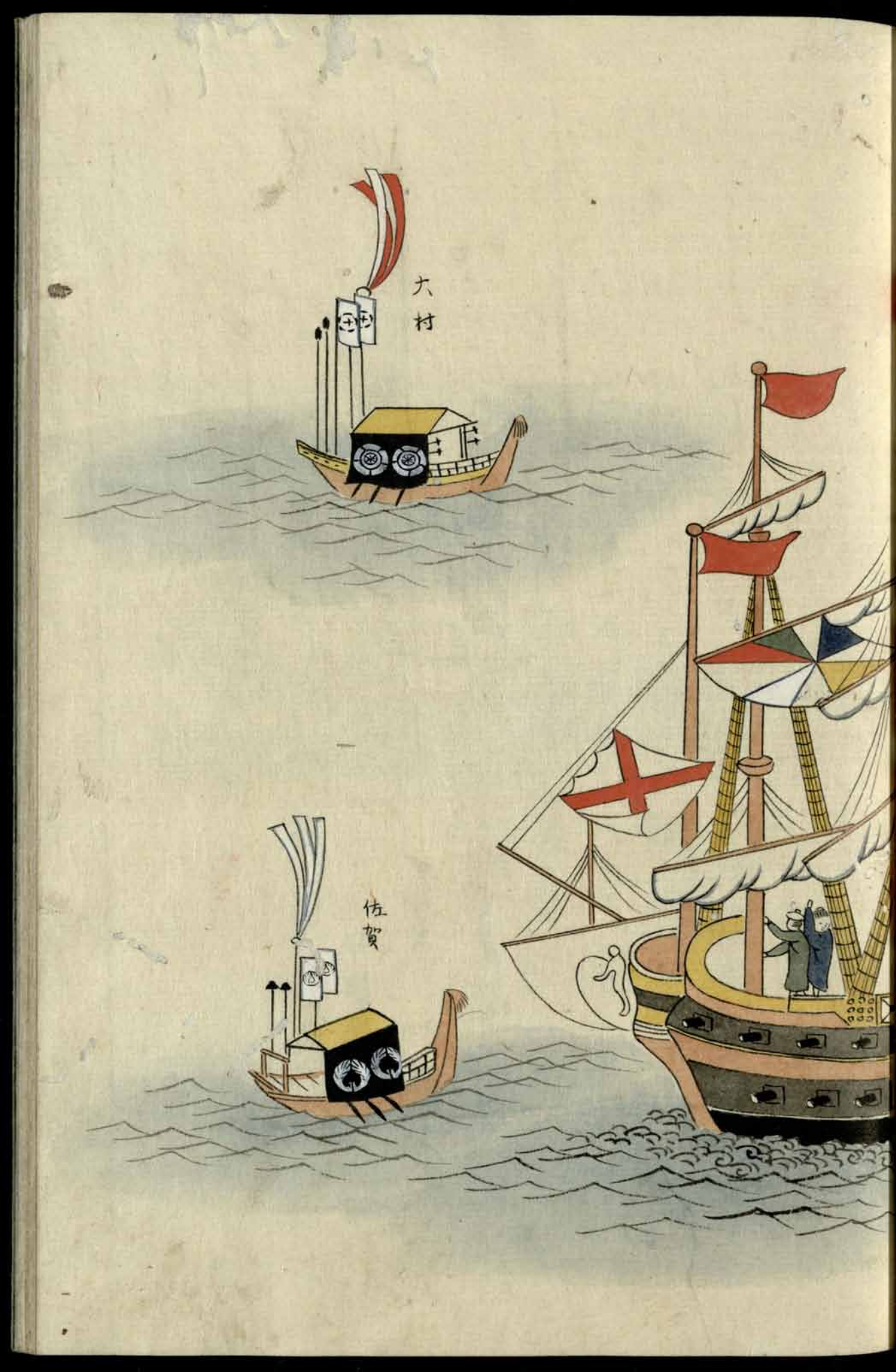
魯西亜国舩印小旗圖

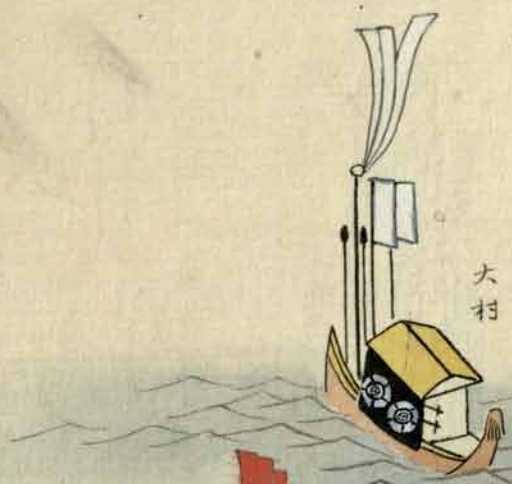
ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

魯西亜船入津圖

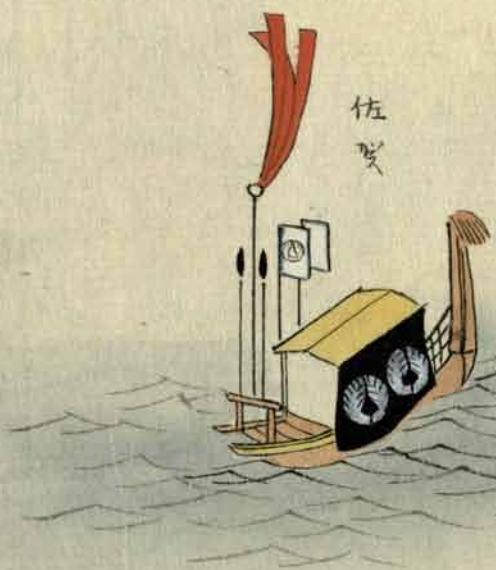


筰前
肥後


大村
佐賀


大村

御用船


佐賀

追々上陸之度れ於戸一本船破壊の修理も此度
船等追々中上の由にて梅ヶ湯と云処に仮屋を来
し十一月十七日仮屋をもしめ設有之者都合四十
人（一説十六人）上陸し其処に住居
飲食調理のものも其中にあり此余は船に
住居
佐賀川百船へ竜王丸へのり移り上陸ゑ其余はまつ
ていら船へのせられ多り漂流四人之者も一日上
陸と長崎分傳望寸

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

右を按ち深に建川と出河のヲロシヤ客館の略
図なり長さおよそ湊口の図ハことなり大略こ
圖ことなり所用し様示せるなり本船入津あ
ふご篤船ホもこゝ大略之見ホし正図とも
公邊にハくこしく認くなりし也彼本
船の図もなりしなる畧図も御介送り
しものを留せり
信ものの船といへるなりも来るの所船の船を
仮屋に修理せるの所船迄作りかけなり
兵(ゲン)冥(クワン)を新(シン)規(キ)に建て彼邑の居留かなり
其の居(ガ)家(シキ)之六夏浦にて次に留もなり其

まゝ此名を当自ら是を唱へ呼ひてこれ其図の
かきまゝに能く図をあらはしけれ当時ことくく
其名を書留む一品一種は海を年なし
其中アンゾウといふ一匹所画も有其細之も
極めて巧さるとき云葉なども諸国の梓に通
し居る根子ゝく此人の通称をてゐく年し矣
きし頃なり
太十郎は生物陰気偏屈の性なる事本紀に陰
遅く其後もなかの所り新もなる事名家し
所多名の事ものなる事ゝと思ひ背陰
せしも一日の図気礼て墓所ゝく使ふ又

仮名ヒサノット等ノ像

并

冠帽諸圖

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

赤羽
白羽
白毛
金緒
黒皮
金糸織レンタトス
金糸金飾アリスウイウストス
衣服花色天鵞織但衣服ハ着替ノ度地性色共種々ナレ共製作ハ同シ――ナリ
金絢
裏猩々緋
白カナ絢
此鍵流金也

上案針役　歳三十四

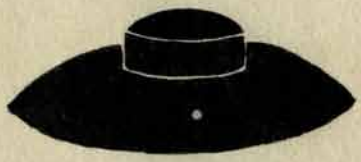
ラートニノウ

サウダ
歩卒
アシカル

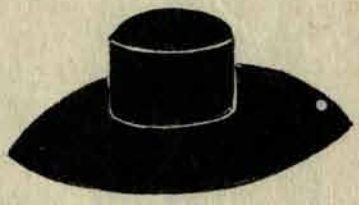
同脊面

足怪何しも對の衣服なり濃萌黄羅紗なり其内太鼓なり打そのハ家
色なり如此神の足怪ハ人ツ使節りの頭屋の内ニ勢圓ニ相詰居
る者人ハ該炮者人ハ該炮持ツ二時ツ代るなり

冠帽



コノ二種ハ水兵ノ冠ル



仮節

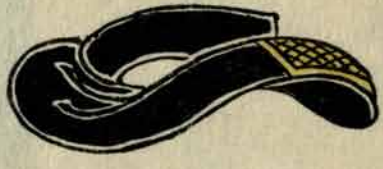
役人

足袋裏　熊ノ毛ノヤウニ厚キ毛ノ也

表

黒毛小役人ナト冠ル

コノ帽子ハ水兵ノ着



オ、ストコ

鎗

鏃薄ク至ニ手弱キモノナリ

一 同役引　三足　一 同御半　壹足

一 足袋　壹　一 祓又單羽織　壹

一 同乱呂蒲　壹　一 同解裏　壹

一 單鳥解裏　壹　一 乞織小手蔵　壹

一 祓綿　壹　一 矢立　壹本

一 紙入　一　一 伊勢宮行祓

一 誤　一挺

同人之者魯西亜國為贊物品々

一 金誤　八十　一 詔被時半　同

一 日本仕立絹織入　同　一 同羽織　同

一 同繻半　同　一 同役引　同

一 同帯　四ツ　一 華蒲團　大小 七ツ

一 同茶木綿枕　六ツ　一 羅紗繻半　四ツ

一 同合羽　四ツ　一 羅紗　一反

右者同主ゟ追て誉ひ申し

一 金紗　六ツ　一 銀錢　大小 六る

一 銅紗　八　一 衣類居見入箱　四

一 羅紗袈裟　四　一 同繻半　三

一 同合羽　五　一 同きり　七足

一 繻半帯　三節　一 同風呂舖　一二

一 木綿茶麻繻半　九九　一 同紋　十足

一 同風呂鋪 八 一 麻蒲團 五

一 毛織袷 壱 一 同草帯 一節

一 同殺引 二足 一 同合羽 四ツ

一 如意屋ニ兵ヱ木綿帽子 七ツ 一 同殺引ニ兵足袋 廿足

一 草袋 三 一 同帽子 一二

一 同皆 五足 一 帯入 四ツ

一 手帯 二 一 毛皮ツーホク貂皮 壱枚

一 同袋 壱 一 椰子多飲 二ツ

一 如意こ 三 一 打(天)帯(ヒ) 二

一 染木綿 二反 一 角木綿 式

一 櫛 壱枚 一 鼓目きん 七

一 諫 五枚 一 利刀箱 三

一 誰 五本 一 湯薩 一

一 同 [illegible] 一本 一 硝子箱のあし 三

一 硝子瓶 三 一 同玉 四

一 煙管 三本 一 計入 一

一 鏡 五面 一 眼鏡 一

一 横文字本 三冊 一 世界図系 船絵 十二枚

一 麻地油絵 玉玉まの婦

右は彼玉遊留中 福滝(カヤキタメ) 金銀ヲ以買調文を知

書ニ書を追ひ記し申し

深宮の彼金銭ハカランツケ和蒙チリランザ」といふ
銭なり其形中に鮫の形何なりし左右に鉞を持て
る人の像を裏面ハ横文字何なり 形象しく 我当剣らるひ 訴く目も眩し
銀銭 四方五十 枚しく高さ
カランツケハ阿蒙陀なり阿蒙銭な
しぞ日本にて交易を屋しといふ所なりて絹
車と当オロシヤの金銭ハカランツケなり是大キ
なり銀銭四人前六百九十六銅銭十四五枚金銭
四人前八十九枚持系
銀銭を新古様ニ通何なり皆持来ルなり 冥王帝
王ハエカラナ当今ニ服毎迄ハ王の像を鑄當今の
王なりし以来文字をかなり ホコイといふ字之

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM